

舵輪



ボランテニアの皆様もご存知のとおり、海王丸の係留計画が大幅に変更される予定となりましたので、「舵輪 号外」を発行し、皆様に現在の状況をお知らせします。

海王丸

富山新港係留断念へ

常務理事・事務局長
ボランテニア二九一番

勝山 達雄

海王丸が、新湊・海王丸パークに継続係留という、富山県中沖知事と大阪市西尾市長との政治決着を報じたマスコミ各紙の扱いをヘッドラインを中心に、アラカルト風に綴ってみました。

第1報は、読売新聞で一二月三日(金)でした。スクープ記事で、富山はローカル版扱いで、

海の貴婦人 新湊・富山新港

係留継続へ

海王丸大阪市回航費負担きらう
出資金三億六千万、県が持つ

とあります。

これが、大阪版となりますと、

えーい 大阪市 海王丸あきらめた

めた

共有・富山に泣きつかれ
半船 権利売る

神戸版では、

もってけ「海王丸」
大阪市富山に口説かれ

半船 権利譲る
ヨロロッパから代わりを購入へ

十二月三日の記者会見を受けての県内各社の反応は、次のようでした。

北日本新聞

「海王丸」恒久展示の可能性
共有・大阪市が譲渡検討

富山新聞
海の貴婦人富山に「永住」
大阪市が誘致を断念

富山新港海王丸パークで係留
「心から感謝」と大喜び
中沖知事

中沖知事

読売新聞

大阪市の

海王丸継続係留容認 県、
新湊市が「歓迎」 表明

毎日新聞

富山新港の「貴婦人」
海王丸永久係留へ

大阪市側「回航断念」の
方針で

北陸中日新聞

海の貴婦人「独占」へ
海王丸の引き取り大阪市が断念
新湊市

各社それぞれにローカル記事ではあるが、三段抜き以上で取扱い、大阪方面とは対称的に、海王丸への思いを込めて記事にして頂いたことに心より感謝申し上げます次第です。

なかでも異色であったのは、日本経済新聞でした。全国版社会面という破格の取扱い振り。

海の貴婦人「富山に永住」
「海王丸」新港パークの係留続行

との見出し、五三九字を費やして記事にしてくれました。ところで、中沖知事のメッセーは五三二字でした。念のために。

知事談話

海の貴婦人 帆船海王丸は平成

一二月三日(金)発表された、海王丸富山恒久展示への、中沖富山県知事メッセーの原文を掲載します。

二年以来五〇万人余りの乗船者を数えるなど県民に深く愛されているところである。こうしたことから、富山県での恒久展示を望む声が高く、かねてより大阪市等に対し、その可能性を打診していたところであるが、このたび帆船海王丸が大阪市及び関係の皆様のご理解により、富山県において恒久的に公開展示される方向となったことは、誠に喜びに堪えない。

本県では、地元新湊市などと協力し、海王丸パークの整備や展帆ボランテニアの育成など、海王丸を核とした海のプラザ・日本海ミュージアム構想の実現に努めてきたところであるが、今回の大阪市側のご好意は、同構想の推進に一層の弾みをつけるものであり、まさに意義深く、心から感謝申し上げます。

また、これまで海王丸の富山県での恒久展示の実現のためにご尽力いただいた皆様方にも御礼申し上げます。

今後は、大阪市や関係機関と事務的な協議をすすめていくこととなるが、県としてはこのご好意を活かし、県内のみならず、全国の人々にも海王丸に親しんでいただけるよう一層努力してまいりたい。

「ボランテニア」の集いの開かれる

さる、一二月四日(土)、恒例の「ボランテニアの集い」が県職員会館で開かれました。当日は、悪天候にもかかわらずたくさんの方々が参加され、今年のボランテニア活動を振り返るとともに、ボランテニア間の懇親を深めました。

セイル裁断断行される

さる一二月一日(土)、一二日(日)の両日、今年度の冬季の「技術講座」として行うセイル作製のためのセイル裁断を、ボランテニアの皆様のご協力を得て行いました。

延べ二八名のボランテニアの方々が参加され、研修室一杯に広げられた帆布を一枚一枚裁断していきましました。

尚、セイルを作製予定時期は左記の通りです。

セイル作製開始日

平成六年一月二二日(土)

二三日(日)

午前十時頃～午後四時頃まで

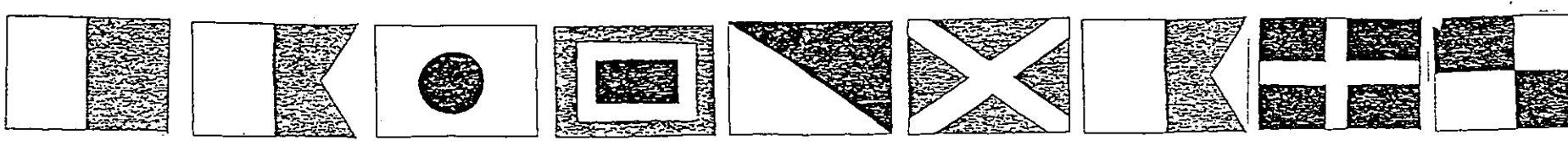
(参加時間は自由)

以後、セイル完成までの

毎週土、日曜日

作業服及び用具は本船で用意しますが、昼食については必要な場合は各自でご用意ください。

作業服及び用具は本船で用意しますが、昼食については必要な場合は各自でご用意ください。





餅つき大会 鏡開き

のご案内

前号でもご案内しましたが、年末年始の恒例となつてはいるボランテニア主催、財団後援の「餅つき大会」と「鏡開き」を海王丸前で行います。ボランテニアの方で、おてすきの方はぜひご参加ください。

「餅つき大会」

準備日時

平成五年一月一八日(土)
午後二時

場所 海王丸甲板上
包丁、まないた、タオル持参

実施日時

平成五年一月一九日(日)
午前九時

準備開始
午前九時 餅つき開始
午前一〇時

「鏡開き」

準備日時

平成六年一月一五日(土)
午後二時

場所 海王丸甲板上
包丁、まないた、タオル持参

実施日時

平成六年一月一六日(日)
午前九時

準備開始
午前九時 餅つき開始
午前一〇時

「マゼー」からの お知らせ

勝山理事の記事にもありますとおり、海王丸の保存計画が大きく変更されました。(まさに富山県民の熱意、ネバリ勝ち?)

従来四年半毎の移動ということ、ボランテニア活動もその係留期間毎に集中して、という考え方や心構えが、皆様方にも我々財団職員にも一般的であったかと思いません。

ところが富山に永久展示ということですから、財団運営はもろんのこと、ボランテニア活動につきましても長期的展望のもと、さらに本腰を入れて取り組んでいく必要が生じているものと思われま

す。もちろんまだまだ整理すべき問題は山積していますが、どうせならば目標は大きく、富山県、いや北陸地方の海浜地区の中核、そのまた核として海王丸を、そして海王丸ボランテニア活動を活気のあるものにしていきたいと思う次第です。ただ、「舵輪」前号に投稿しました海王丸のボランテニア活動に関する私の基本的考え方には、いささかの変更もありませんが、今後皆様との連絡を一層密にしなから頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

あとがき

突然降って涌いたような(?) 「海王丸」富山係留継続、富山県にとつては大変喜ばしいことである。

本船をマゼーシップとして育った一万一千余名の海の男達と、戦後の在外邦人帰還輸送によって海王丸で帰国した二万七千余名の人たち、そして世界中のシーマンがその名を知る「海王丸」が、ボランテニアの皆様をはじめ富山県民はもとより、多くの人たちに愛されるよう、努力していきたいと考えます。

(望遠鏡)

